

李詔つれづれ……………尾池 和夫

第 8 回

【端午】

五月の節句、武者人形、菖蒲菖く

菖蒲湯も季語で、いずれも五月五日の行事である。端は物の始り、端午は月始めの午の日、五に通じて五月五日を端午の節句と呼ぶようになったという。この日、粽や柏餅を食べる。粽は中国の風習から、柏餅は日本の風習で、柏は新芽が出るまで古い葉が落ちないので家系が絶えないという意味がある。

朝鮮半島では四大名節の一つで菖蒲で祝う。ベトナムでは餅米で祝う。農歴の端午節は中国でも祝日で、二〇一四年は新暦の六月二日になる。

奈良時代には、すでに宮中で菖蒲を髪に飾って天皇から薬玉を賜り、貴族たちは薬玉を互いに贈りあった。鎌倉時代、菖蒲が尚武に通じるので、端午は男子の節句になった。鯉幟は、中国の登竜門の故事により江戸時代に広まった。吹き流しの五色は五行説に由来する。

枕草子には、「節は、五月にしくはなし。菖蒲蓬などのかをりあひたるもいみじうをかし」とある。五月五日は「薬の日」でもある。奈良の菟田野で、鹿茸と薬草を採取する薬狩りを行なう行事が、すでに日本書紀にある。採取した薬草には、菖蒲や蓬などの香りの強い植物が多かった。今でも菖蒲と蓬を束ねて軒先に刺して厄除けや無病息災祈願などの行事が伝わる地方がある。